

生活実感調査 設問一覧 (27政策分野130問)

「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらとも言えない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の5段階で回答

分野	番号	設問文
1 環境	1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。
	2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。
	3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。
	4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。
	5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。
	6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。
	7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。
2 人権・男女 共同参画	1	くらしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。
	2	いきいきと活動して自分の能力を発揮する場所や自分に合った働き方を見つける機会がある。
	3	女性も男性も、仕事と生活(家庭や地域活動など)をバランスよく充実できる社会になってきている。
	4	女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。
3 青少年の 成長と参加	1	青少年が社会体験を通して「生きる力」を伸ばせている。
	2	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。
	3	青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。
	4	青少年がニート、不登校などの課題に直面したときに信頼して相談できるところがあり、支援がされている。
	5	青少年の成長を支援する社会環境と、青少年を受け入れる居場所がある。
4 市民生活 とコミュニ ティ	1	地域の一員として安心してらせるまちになっている。
	2	町内会・自治会など地域の組織の活動が盛んである。
	3	地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。
	4	多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。
	5	町内会、自治会などの地域の組織の主体的な活動と、それに対する行政の支援とがうまくかみ合っている。
5 市民生活 の安全	1	犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。
	2	事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらせるまちになっている。
	3	悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。
	4	消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。
6 文化	1	京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。
	2	市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。
	3	文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。
	4	文化財が社会全体で大切にされ、地域の活性化にもつながっている。
7 スポーツ	1	気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。
	2	プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。
	3	スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。
8 産業・商業	1	京都では、さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。
	2	京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。
	3	京都の特色を生かした産業活動が行われている。
	4	京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。
	5	働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。
	6	京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。
	7	ソーシャルビジネス(社会的企業)が育ってきている。
	8	京都の卸売市場は、安全・安心な生鮮食品の提供に役立っている。
9 観光	1	じっくり滞在し、ほんものどふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。
	2	京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。
	3	京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。
	4	京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。
	5	京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。
	6	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。
	7	京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE都市になってきている。
10 農林業	1	京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。
	2	京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。
	3	市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。
11 大学	1	京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。
	2	京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。
	3	京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。
	4	学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。
	5	大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。
12 国際化	1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。
	2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。
	3	国籍、民族、文化等が違っても互いに理解し合い、ともにいきいきとくらせるまちになっている。
	4	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。
13 子育て支援	1	子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。
	2	京都では、子どものいのちと人権が大切にされている。
	3	必要ときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。
	4	働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。
	5	子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。

分野	番号	設問文
14 障害者福祉	1	障害への理解が進み、障害のあるひととないひと、認め合い、支え合ってこられるまちになっている。
	2	障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。
	3	働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけようになっている。
	4	バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、くらしやすいまちになっている。
15 地域福祉	1	社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。
	2	地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。
	3	地域において福祉にかかわる民生委員などのボランティアのひとひとが活発に活動している。
	4	地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。
16 高齢者福祉	1	高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実したくらしを送れている。
	2	高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。
	3	高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してこられるまちになっている。
	4	介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしいくらしを送れている。
	5	高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。
17 保健衛生・医療	1	正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。
	2	利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。
	3	安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。
	4	公共の場では禁煙が進んでいる。
	5	感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。
18 学校教育	1	保護者や地域のひとひとが学校のさまざまな活動に参画するなど、地域ぐるみの教育が進んでいる。
	2	安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。
	3	学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとひとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。
	4	子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。
	5	京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。
19 生涯学習	1	京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。
	2	生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。
	3	地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。
	4	子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。
20 歩くまち	1	京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル(くらし方、生き方)が大切にされている。
	2	京都での移動には、公共交通が便利である。
	3	歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。
	4	まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。
	5	地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。
	6	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。
21 土地利用と都市機能配置	1	買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。
	2	田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。
	3	京都のまちの南部地域が発展してきている。
	4	身近な地域が魅力的になっている。
	5	身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。
22 景観	1	京都の個性的な町並み景観が守られている。
	2	身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。
	3	京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。
	4	大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。
	5	三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。
23 建築物	1	建物を新築するときは、建築ルールが守られている。
	2	バリアフリー化された建物が増えている。
	3	地震や火災に強い建物が増えている。
	4	身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくならないよう改善されている。
24 住宅	1	長く大切に使える住宅が増えている。
	2	地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひとと、新しく転入してきたひとと、分け隔てなく参加している。
	3	身近な地域で空き家が減っている。
	4	低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。
25 道と緑	1	災害時も安全に移動できる道路網ができている。
	2	京都は緑が豊かである。
	3	市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。
	4	道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。
26 消防・防災	1	身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。
	2	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。
	3	消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。
	4	応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。
	5	防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。
27 くらしの水	1	京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。
	2	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。
	3	京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。
	4	水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。
	5	京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。
	6	水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。